

2007年12月7日

基礎水理シンポジウム開催のご案内

基礎水理部会長

関根 正人

土木学会水工学委員会の下に組織されております「基礎水理部会」では、その活動の一環として、今年度より標記のシンポジウムを開催することに致しました。このシンポジウムは、基礎水理に関わる数多くのテーマの中から毎年二つを選び、これに関わる講演と中身の濃い議論とを通じて、該当するテーマに関する本質的な部分についての理解を深めるとともに、未だ残されている研究テーマや問題点について再確認することを目指しています。また、若手研究者や大学院生の参加を歓迎し、次代を担う人たちが各テーマに関わる研究のおもしろさ、現状あるいは今後に向けての展望、などの議論に加わり、刺激を受ける機会となることを期待するとともに、できれば新たにこの分野の研究に参画する機会になればとも願っております。このシンポジウムの運営については基礎水理部会で致すこととなりますが、部会のメンバー以外の多くの方々への参加も歓迎致します。お誘い合わせの上、会場にお集まり下さいますようお願い申し上げます。なお、今年度は準備の都合などから変則的な運営の仕方となりましたが、次年度以降は講演を公募するなど今年とは異なった形式の会となる予定です。詳細は追ってお知らせ致します。

記

日時：2007年12月18日(火) 9:30-16:30(予定)

場所：土木学会講堂 (東京都新宿区四谷一丁目無番地)

プログラム：別紙の通り

参加費：無料

以上

2007年度 基礎水理シンポジウム・プログラム

2007年12月18日開催 (会場：土木学会講堂)

【第1のテーマ】 都市における氾濫流とその解析

座長：関根 正人 (早稲田大)

- 9:30 ~ 9:35 開会の挨拶
- 9:35 ~ 9:45 第1のテーマに関する概略説明
- 9:45 ~ 10:25 中川 一 (京大防災研) : 基調講演
「氾濫流とその解析 - 現状と今後取り組むべきこと - 」
- 10:25 ~ 11:00 重枝 未玲 (九州工大)
「都市域を対象とした包括型氾濫解析モデルの開発」
- 11:00 ~ 11:10 休憩
- 11:10 ~ 11:45 川池 健司 (京大防災研)
「『統合型氾濫解析モデル』と今後の課題」
- 11:45 ~ 12:20 内田 龍彦 (広島大)
「任意の境界形状を評価できるデカルト座標系浅水流モデルと下水道を考慮した氾濫統合解析手法の開発」
- 12:20 ~ 12:30 第1のテーマに関する総括
- 12:30 ~ 13:30 昼休み

【第2のテーマ】 流砂

座長：里深 好文 (京都大)

- 13:30 ~ 13:40 第2のテーマに関する概略説明
- 13:40 ~ 14:20 江頭 進治 (ニュージエック) : 特別講演
「河川整備計画における流砂現象評価の重要性」
- 14:20 ~ 14:55 藤田 正治 (京大防災研)
「浮遊砂拡散理論に関する問題点と新たな展開」
- 14:55 ~ 15:05 休憩
- 15:05 ~ 15:40 関根 正人 (早稲田大)
「Bed material loadの流送過程における問題点と新たな展開」
- 15:40 ~ 16:15 竹林 洋史 (徳島大)
「混合砂河床の取り扱い方法について」
- 16:15 ~ 16:25 第2のテーマに関する総括
- 16:25 ~ 16:30 閉会の挨拶

以上